

## 令和7年度第3回 感染症発生動向調査協議会

### 議事概要

1 日 時 令和7年6月18日(水) 14:00～

2 場 所 岐阜大学医学部本館 1階 入札室(岐阜市柳戸1-1)

#### 3 出席者

委 員 : 馬場 尚志(岐阜大学医学部附属病院 生体支援センター センター長)  
川本 典生(岐阜大学大学院医学系研究科 小児科学 臨床教授)  
澤田 明(岐阜大学医学部附属病院 眼科 臨床准教授)  
加藤 達雄(国立病院機構長良医療センター 院長)  
高橋 義人(岐阜県総合医療センター 中央検査部部長 兼 臨床検査科部長)  
オブザーバー: 市原 拓(岐阜市保健所 感染症・医務薬務課 感染症1係長)  
事 務 局 : 松尾 孝和(感染症対策推進課 感染症対策監)  
酢谷 奈津(感染症対策推進課 感染症対策係長)  
松岡 真史(感染症対策推進課 技術主査)  
野池 真奈美(保健環境研究所 主任専門研究員)  
吉田 菜穂(保健環境研究所 専門研究員)

#### 4 議 題 (進行:加藤委員)

- (1) 前月の感染症発生動向について
- (2) 検討すべき課題について
- (3) 情報提供すべき事項について
- (4) その他(感染症対策推進課から)

#### 5 議事概要

##### 【前月の感染症発生動向について】

- ・事務局からの説明は資料のとおり。
- ・月番委員のコメントについては資料のとおり。

##### 【検討すべき課題について】

##### ○百日咳および伝染性紅斑流行の注意喚起について

- ・(保健環境研究所から)百日咳については5月に「ぎふ感染症かわら版」を発行して啓発を行っています。
- ・(保健環境研究所から)伝染性紅斑については22週まで資料に示していますが、その翌週23週でさらに警報レベル付近まで増加しました。直近の24週では一旦減少しているため、動向を見極めて啓発を行いたいと思っています。
- ・(委員から)現場でも患者が多くなっている印象があります。現在の感染状況や基本的な感染対策を行うことについて情報発信していくとよいと思います。

## 【その他】

### ○流行性角結膜炎について

- ・(委員から) 全国ではコンスタントに発生していますが、岐阜県ではほとんど報告がないようです。
- ・(感染症対策推進課) 資料中の 2022 年の時のように流行があれば増えますが、定点医療機関として病院が指定されていると報告が少ない傾向があります。眼科定点は数が少ないので、こういった医療機関を指定するかがより重要です。
- ・(委員から) 現在、診療現場で流行っているという感覚は特にありません。

### ○日本紅斑熱

- ・(保健環境研究所から) 岐阜県で 2 例目の報告がありました。県内での感染が疑われる事例としては初めてです。
- ・(委員より) 野山を歩く方への注意喚起と併せて、医師向けの情報提供も検討するとよいのではないのでしょうか。

### ○季節性インフルエンザ注意報、警報について

- ・(事務局) 注意報については「県内 1 以上の保健所管内で定点医療機関あたり 10 例以上」、警報については同じく「30 例以上」となった場合を発表等の基準としています。今年度から定点医療機関数が減少したため、各定点医療機関における患者報告数の偏りが発表に影響を与える可能性があります。過去のデータを解析した結果を次回の本協議会で示し、御意見を伺いたいと考えています。具体的には「県内 1 以上の保健所管内で」であるところを「県内全域で」と変更することを検討しています。
- ・(委員から) 注意報については、「県内全域で」とすると発表のタイミングが遅くなりすぎるかもしれません。「複数の圏域で」とするなども検討するとよいと思います。

### ○SFTS 陽性の猫を診療した獣医師が死亡した件

- ・(委員から) 獣医領域では数年前から重要視されているようです。一方で、医療機関に獣医師が患者として来院した時に、SFTS を想定するのは現時点で難しいかもしれません。
- ・(委員から) 獣医師、医師に対して啓発をしていくとよいかもしれません。